

すかんぽ とやま

第23号

今号の内容

★「子どもの育ちを支える 子育て支援フォーラム」

—すべての子どもの
権利と育ちを保障していく
社会の実現を目指して—

- 「保育の出前」実演
社会福祉法人 わかば福祉会
- 記念講演「保育園と家庭と地域が
つながる食育の推進」

上越教育大学大学院
教授 野口 孝則



「みーつけた!」



「さらさら～」



「もっててね」



令和7年度「子どもの育ちを支える子育て支援フォーラム」

—すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現を目指して—

令和8年1月24日に、「子どもの育ちを支える子育て支援フォーラム」が開催されました。わが国では人口減少が進み、核家族化・世帯員数の減少に加え家族相互に助け合う力が低下し、地域住民同士の交流の機会も減り、家庭と地域へのつながりが弱くなっています。保護者の子育てへの不安や悩み、家族や地域からの孤立が、児童虐待をはじめ、子どもの命を脅かす深刻な課題につながっているともされています。

このような状況の中で、未来を担う子ども一人一人の育ちを保障し、子育て家庭とともに、地域社会全体で支えていくような「子育て文化」を育むことが重要となっていることから、富山県保育連絡協議会では、平成9年から関係機関・団体と協働のうえ実施している子育て支援「保育の出前」活動実践を通し、子育ての楽しさや喜びを地域社会へ広めるなど、子育てしやすい地域づくりを進めているところです。

今年度のフォーラムは、食育を通して保育園と家庭と地域の連携を一層深め、子どもの育ちを支える子育て支援を充実させるための仕組みを考えることを目的に開催され、「保育の出前」の実演と記念講演が行われました。

「保育の出前」実演・実践発表

社会福祉法人 わかば福祉会

テーマ

『ウクレレでいっしょにあそぼう!!』

小さくて軽くて持ち運びが便利な楽器「ウクレレ」は、弦が4本しかなく、コードも簡単なので、すぐに子ども達と一緒に演奏しながら歌うことができます。多くの子ども達が楽しめるように、段ボールとゴムで手作りのウクレレを作ることができます。

今回の「保育の出前」の実演では、簡単な小物や衣装を身に付けていくつかの曲をストーリー仕立てにしてみました。また、会場の参加者にも手作りのウクレレやマラカスを配り、一緒に楽しい時間を過ごしました。

～実演・実践発表をみた人からはこんな声が聞かれました～



保育士さんの笑顔、素敵だった♡

子ども達が楽しく踊っている姿が目に見えた

手軽にチャレンジできるなら、子どもに触らせてみたい!

一緒に身体を動かして歌うことで心が軽くなった

保育士さんたちが日々楽しんでおられるのが伝わった

保育が身近な環境にないけど、少し触れたような気がする

子どもだけでなく、高齢者も楽しめそう～

参加型の歌や踊りがあって楽しめた!!

ウクレレの音色の心地よさを実感!ウクレレを始めてみようかな…

～保育現場でのウクレレの役割について～

ウクレレの良さは、手軽でコードも覚えやすいことと、子ども達の顔を見ながら一緒に身体を動かして楽しめることです。子ども達と目を合わせながらウクレレを演奏することで、子ども自身が身体全体でリズムをとって表現したり、保育者が子どもとの距離を縮めることができたりしてうれしく感じています。



「保育の出前」の実演と実践発表の感想

～アンケートより～

- ウクレレに合わせて歌うだけでなく、手や指など身体を動かすことで、全身で音に触れ楽しむことができた。園でも、子どもや保護者を巻き込んで楽しんでいきたい。
- 子ども達を育てていく上で、子どもと一緒に楽しむということが、互いの情緒を安定させるとつくづく実感した。

子育て支援事業 保育の出前

子育て支援事業 「保育の出前」とは?

保育士等が子育て支援事業の一環として地域に出向き、専門知識・技術を活かした遊びの実演を行い、子どもとの関わり方や子育ての楽しさ・喜びを伝えるボランティア活動（無償）です。

子育ての楽しさを出前しま～す♪ 子育ては楽しく喜びと感動いっぱいのおとなみです!

具体的な保育の実演内容とは?

- 保育士等2～3人で行う20分程度の実演で、内容は次のとおりです。
- ①家庭にある材料を使って手作り遊具を作り、家庭で子どもと一緒に楽しめる遊びの紹介
 - ②運動遊び、手遊びなどを通して、サークルや家庭で笑いや会話が広がるような遊びの紹介
 - ③子どものしぐさ、遊びを通して発達のポイントや、子どもが求めている関わり方など、子ども理解につながる例の紹介

地域の子育てを 応援します!

出前先は・・・
公民館、学校、児童館、
企業など



食事の基本概念と毎日の食事の重要性

本日は、保育士の皆さん、栄養士・調理師並びに保護者の皆さん、民生委員の皆さんが、今の時代を生きる子ども達とどのような食と

の向き合い方をしていくか、地域の中でどのように連携しながら子育てをサポートしていくか、についてお話ししたいと思います。

全国保育士会のリーフレット『毎日の食事を中心とした食育の推進～保育の中の食育～』にありますように、毎日の食事を中心として食育が推進されるべきです。食育というと、食育イベントや行事ごとと考えられます。それももちろん大切ですが、それだけではありません。子ども達は毎日食器や、食具つまりお箸とかスプーンを使っています。いきなりパツとできるわけじゃなく、成長とともに上手にお箸が使えるようになってきます。もちろん、失敗もありますが、できない度に怒っていたら終わりです。お箸を使う喜びや、お箸を使う楽しさを味わいながら行う、毎日の食事こそが食育です。

食事における安全性について

一つ一つの食事の汁の飲み方、ご飯の食べ方、おかずの噛み方において、「よく噛んで食べるんだよ。」は、大人がどの子どもに対して必ず言う言葉です。どうして『よく噛んで食べなくちゃいけない』と伝えるのでしょうか？

お腹にちゃんと行き届くためには、子どもの喉元を通らなくちゃいけません。皆さんが今持っている鉛筆、ペン、その太さが子どもの食道の太さぐらいです。これより小さくしてあげないと窒息するんですよ。近年、あちこちで窒息の事故が起きています。そしてニュースになっています。保育の現場でもそういう事故が起きるたびに、一つ一つの食材を除去したり、または小さく刻んだりして提供しています。

近年、保育の現場では、ミニトマトやブドウのような丸いものは丁寧に切って提供するか、食べ方を丁寧に伝えなければいけないといわれています。家庭

で毎日の食事を提供する際にも、「これぐらい食べられるよね。」「よく噛んで食べたら食べられるよ。」という過信をせずに、このような丁寧な食事の提供が求められています。

食べたい気持ちを高める

本日のリーフレットには、『特に保育所等における食事(給食やおやつ)は、食欲を育む場として重要であり、お腹が空いて食べる食事の美味しさを実感しながら、食への興味関心を高めていくことができます』とあります。この文章の中で『食欲を育む場』がとても大切なところです。それは食べたい気持ちを高めることであり、食べたい気持ちが高まって食べる食事は美味しく、喜びにつながります。逆を言いますと、食べたい気持ちがまだできてない時はどれだけ食べろと言われても食べられないんですね。これがどの人間にも当たり前前に備わっている食欲というものの基本です。

食べる前の遊びや活動が食欲につながる

「お昼ご飯を食べられない。あんまり食べる気がないというのはどうしたらいいですか?」という質問をよくされますが、「午前中しっかり遊ばせたらどうでしょうか。」というのが私からの回答です。午前中どれだけ体を使って遊ぶのか、午前中どれだけ頭を働かせて脳を使うことによって、血液中のグルコースをどんどん消費するのか、が大切です。「ちゃんと食べるのよ。」なんて言わなくても、誰でもお腹がすいたら早く給食を食べたいと思う。つまり、午前中遊ぶことが食育です。まずは体を動かす、頭を働かせる。しっかりお腹を空かせることが食育であるということです。

体を使う、頭を使う以外に『食べたい気持ちを高める』ためには、これから食べるものがどれだけ魅力的なのかを伝えたいですね。例えば、保育の現場であれば「今日のお昼ご飯は何だろう?」とあえて聞いてみる。「えー何?」「何だろう。」想像するということによって「今日のお昼、みんなでこの間掘ったサツマイモを使ってるらしいよ。」「えー何?」「サツマイモがど

んな風に変わるの?」こんなことでいいわけです。お家でもできることですね。「お母さん、今日の夜ご飯なんだろう?」「今日はキャベツ使うよ。」「キャベツ使って何するの?」「さあ、当ててごらん。考えてごらん。」とか、こういうのもいいんですね。食べることを喜びとを感じるためには、その前に子ども達はその食べ物に興味を示す。導きというんでしょうかね、それが大事かなと思います。

匂いで食材の魅力を伝えることが大切

私は、園でも家庭でも匂いって大事だと思っています。子ども達に「この匂い何かな。」「いい匂いがするな。」と、家庭でもぜひ話しかけていただきたい。私が特に力を入れたいのは、カレールウを入れた後のカレーの匂いじゃなくて、その前のお出汁の段階の匂いです。「野口先生、うちではお出汁なんて取っていません。」といわれますが、出汁の匂いではないのです。カレーなら最後のルウを入れる前、肉じゃがなら最後に醤油を入れて、いわばその肉じゃがになる前の匂い。何なら玉ねぎを刻んだ匂い。玉ねぎをフライパンで、バターまたはサラダオイルで炒めた匂い。その匂いを子ども達のまさに鼻に届けてあげたい。この匂いが来ると後で美味しいものが出てくるっていう前段階の匂いってことですね。子ども達って大人の私たちよりも明らかに味覚が鋭いです。嗅覚も鋭いです。こんなことを食育としては大事にしたいなと思っています。

味覚の発達と子どもの感覚の鋭さ

私は、味覚の研究も行ってきましたが、子ども達は免疫力が低い分、大人よりも味覚や嗅覚が鋭いです。自然の苦味というのは毒の可能性があるシグナルです。子ども達は口や鼻で「苦い」と感じたときに本能的にそれを排除します。0歳・1歳・2歳のお子さんたちが人参を食べて「うーっ!」と言って眉間にしわ寄せながらべーって出したら、「この子は自分の体を守ったんだ。」「この子は味覚が鋭い、そして自分の体に入れちゃいけないと判断したものを出したんだ。」と考えます。口では「人参、嫌い。」と言いませんが、本能のセンサー味覚として苦味を感じ取ってしまったのです。

もう一つあるのが酸っぱいものです。酸っぱいもの

のは腐敗物の可能性があります。子どもは口に入れて酸っぱいものはお腹に入れたらお腹を壊す可能性があるかと本能で分かっています。まだ言葉で「酸っぱい」としゃべれなくても、口に入れたら「べーっ!」と出てきます。その時に、「この子は酸っぱいものが苦手なんだな。」と考えるのではなく、「酸味のあるものは体に良くないと本能で分かっているんだな。」「よくできた子だ。」と判断し、次回はそんなに酸っぱいものを提供しないという判断が大事だと思います。

苦手な食材も工夫して食べやすくする

近年、『偏食予防』という言葉をよく伝えています。偏食はよくありますが、偏食を予防する食事は大人のちょっとした工夫でできそうだなと思っています。例えばホウレン草は青臭さと苦みかがあります。数分茹でこぼし、しっかりと水で洗い流せば、子どもはこのホウレン草を食べることができるようになります。人参やキノコも同様です。いきなり大人と同じ形状の人参ではなく、薄く切って茹で時間を長くして柔らかくし、味も薄めの人参にしてあげることで、人参をスムーズに食べることができる子どもに育てる。その後、大人と同じ味・形の人参にしていきます。このようなステップを踏むということが、新たな偏食を作らせないという考え方です。

子どもには、「頑張って食べなさい、食べられるでしょう。」ではなく、「次回は食べることができるように人参料理を工夫するから楽しみにしててね。」や「今日の人参は食べられると思うけど、どう?食べてみて。」と声を掛けます。まず『食べることができる』を作ってから、いろんな料理を提供していくことが大事だと思います。『偏食予防』の考え方を全国各地で先生方にお伝えしていますが、富山県で育つ子ども達にとっても食べやすく、そして苦手なものを作らない食事になっていくといいなと思っています。



みんなで食べることの重要性和家庭での実践

『7つのメッセージ集』(全私保連保育運動推進会議編)より、自分も同じものを食べているのに、隣りの子が食べているところをなぜか美味しそうに覗き込んでいる写真が載っています。保育の現場では毎日見られる姿です。やっぱり友達と一緒に食べることの美味しさ、喜びを実感しますね。保護者の方から、「うちの子、私が作った料理を食べないんです。特に朝ごはん!」という質問をよくいただくことがあります。保護者の方も朝はいろいろ準備があるから、子どもに食事を用意して30分後に見に行くと、全然食べていない。園で子ども達はスムーズに食事をしているのに、どうして家庭だとスムーズではなくなるのか。園の料理は子どもの味覚に合わせていますが、格段に美味しいとは限らない。しかし一番大きいのは一緒に食べる人がいる、みんなで食べると美味しいと感じる、これが園における食育の中心だと思います。もしかしたら、家庭での朝ごはんが食べづらい、食べにくいのは、ひとりぼっちにしているからではありませんか?大人と一緒に食べるとその人が手本になる。子ども同士の場合には、友だち同士で仲間になる。一緒に食べる人がいたらいいのになあとすごく思います。もう一つ、保育の現場で食事の時間にテレビはつけていません。当たり前のことですが、これが家庭でも実践できるのか。つまり、園でも食事の時間にテレビで歌のお兄さん、お姉さんが歌って踊っていたら落ち着いて食事ができるでしょうか?案外、食育の質問は当たり前で、誰でも答えは導き出せるはず。目の前に食べ物があっても、子ども達はテレビやタブレット、スマートフォンの方に集中します。見始めたら止まらない。指は全部タッチパネルで箸を持つ手はありません。脳も目も耳も全部こっちに集中してしまうので、お母さんが早起きして作ったごはんは、30分時間があっても食べられないんです。子育ての基本である子ども達の当たり前を受け止めたら、どんな風に大人が言葉をかけ、行動すべきかが少し分かってくるかもしれません。子ども達を食事に集中させたいなら、一緒に食事をする。これだけで、家庭の食育の9割は終わります。レンジでチンしたものでいい、それでも一緒に食事をするものの大切さがあります。今、社会の中でこれができていないご家庭が多いので、園ではこれこそが子

どもの育ちを支える一つになっています。

献立で伝えたいこと

子ども達に向けた食育は、子どもが実感できることを最優先にしたいと考えています。『毎日の食事には、それぞれの季節や行事に合わせた献立が考えられ、毎日違った食材を用いて、さまざまな調理方法を駆使した料理が安全に提供されています』これは、今日の食事には、この季節だから〇〇が入っている、こういう行事だからこの献立ということや具体的な献立名(~風では中に何が入っているかわからない)、調理方法(焼く、煮る、炊く、蒸す、揚げる)を保育者から子どもに伝えてほしいことです。子ども達に伝える食育です。

魚嫌いという言い方で魚全部が嫌いな子だと決めつけてしまわず、食べやすいような味や硬さ、調理方法にします。本当はサーモンは食べられるが、単にシシャモの苦味、骨、硬さ、焦げが苦手なだけかもしれない。サーモンでもツナでも食べられた魚があれば、「お魚が好きなんだね。」と言ってあげましょう。この子が生まれてからこれまでの間に食べる経験をした魚を、ひとまず食べられたことを褒めるのです。その実践、実体験をした時に褒めてもらえるともっと食べようという気になります。そして、それを喜びに繋げる。そのためには、周りの大人は言動に気を付け、「食べなさい。」という言葉が減らし、食べて当たり前という考え方も引っ込めておかななくてはなりません。

『食事マナー』と『栄養バランス』という言葉の問題点

『食事の時間は社会性を学ぶ大切な場面でもあります。感謝の気持ちをもつこと、食器と食具の扱い方を身に付けること、それぞれの料理の食べ方についての基本的な作法を身に付けることができます』この文章を書いたのは私ですが、なぜ『食事マナー』という言葉を使わなかったのか?それはこの言葉が便利すぎるからです。伝えるべき『食事マナー』は、年齢で違います。年間食育計画のあちこちに『食事マナー』と書いてありますが、何をやったらいいんですか?箸のこと?足をバタバタさせないで座ること?『食事マナー』よりもむしろそうやって具体的に書く方が的確に子ども達に伝えることができます。そし

てもう一つは、『栄養バランス』。この言葉も便利すぎます。栄養バランスを整えるだけでは、何をやっていいのかわからないのです。可能な限り『食事マナー』とか『栄養バランス』という言葉は排除すれば、良い食育につながるのではないかと思います。

食事に向かう気持ちを高めるために

食事の前こそ食事に向かう気持ちを高める言葉かけを行います。「いい匂いがしてきたね。たくさん遊んだからお腹が空いてきたね。」と言葉をかければ、子ども達もお腹が空いた、だから食べたいと実感できるんです。「今日の給食とっても美味しかったね。」で、子ども達は、毎日の食事を満足だと実感できます。保育者の皆さんがおいしん坊の保育者を演じてください。私からのメッセージです。

実践的な食育活動の提案

『保育とカリキュラム2023年5月号』にキャベツを運ぶ食育について書かせていただきました。ビルの3階にある保育園でもできる食育です。食材搬入時に園の正面玄関にキャベツ3玉を段ボールに入れてもらい、クラスの子20人がバケツリレー方式で給食室まで運びます。20人全員がキャベツを持つ、渡す、匂いを嗅げるのです。キャベツを重い、冷たい、傷があると言って運んだ次の週、今度は白菜運び、白菜の匂いに気付く。3週目はレタス運び、レタスの軽さを知り落としたり割れると言う子もいる。直接触れ感じたことが食育であり、栽培をしていないから食育ができないというものではありません。実物大の掲示物のみならず、実物に触れることでより興味が高まります。

「おいしい」の強要はやめましょう

「おいしいから食べてごらん。」の言葉がけでは助言になりません。例えば人参一切れを子ども達の前で「おいしい」と言って食べて見せる。それだけで子ども達は食べてみようとしみます。おいしさの強要ではなく、食べた側のおいしさ楽しさは、子ども達自らが実感するものであって、子ども達がどう感じたのかを素直に聞ける大人でありたいと思います。

『子どもたち一人一人の食事へのこだわりを覚えて、「今日は大好きな食べ物が入っていて嬉しいね。」と

食べる喜びを拡げていく』保育者の皆さんは苦手なものがあると、子どもと相談しながら盛り付けの量の増減を決めている。これが今日のテーマの『すべての子どもの権利』というところに繋がります。全員に同量を提供するやり方は、子ども一人一人を見つめきれていないという代表例になります。一人一人、身長も体重も胃袋も違うのに同じ分量の食事を食べなさいと強要するのは苦痛でしかないということ、そういう経験が忘れられない思い出になってしまうということです。一人一人の個性に寄り添う保育をしていても、給食になると、「みんな残さず食べるのよ。」と一律で義務的な食事をさせる保育者もいます。日頃から子ども達に寄り添う食育や食事することを積み重ねることで、子ども達はいつか食べられるようになるのです。

食物アレルギーの対応と一緒に食べる環境づくり

『食物アレルギーをもつ子ども達がみんなと離れて「ひとりぼっち」で食べる「悲しい環境」を作っているのは献立作成者(栄養士)、その環境を改善できるのも献立作成者(栄養士)です』これは、私が一管理栄養士だから言えることです。例えば、卵アレルギーの子がいる場合、コロッケの衣のつなぎに卵を使用しないことで、みんなで一緒に普通に食べられる献立になります。子ども、保護者、保育者、調理師にとってもアレルギー対応のストレスから解放されるのです。これまで通りのやり方を踏襲するという考え方の脱却だけでいいのです。昨年ぐらいからこの話をすることで、富山県の中にも可能な限り微々たる卵、小麦を減らし、みんなで一緒に食べられる回数を増やしたという市や町があります。このように子どもを真ん中にして、周りの大人が楽しく喜びに繋がる食事を伝えていってほしいと思っています。

引用：全私保連保育運動 新しい時代は子どもから 子どもの今が未来を創る
私たちが伝えたい7つのメッセージ集 全私保連運動推進会議 編



「保育の中での歌」

子どもと一緒に「歌」を楽しむことができなかったコロナ禍を経て、「保育の中での歌」を考えるきっかけとなれば…ということで、以下のようなアンケートを実施しました。

実施期間：2月5日～2月19日
 調査対象者：県保育連絡協議会会員
 回答者：380人（回答者の内訳は下記の表をご覧ください。）

★ 保育経験年数 ★

経験年数	1～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21～25年	26～30年	31～35年	36～40年	41年以上
人数(人)	73	76	64	56	53	30	19	7	2

★ 担当している年齢 ★

担当年齢(歳)	0	1	2	3	4	5	0・1	1・2	0・1・2	3・4	3・4・5	フリー	管理職	その他
人数(人)	37	48	56	52	46	45	16	3	6	2	14	42	7	6

※その他…子育て支援センター勤務、年齢を超えた混合クラス担任

「季節ごとに楽しみたい歌」について

設問1. それぞれの季節でどんな歌を子どもと一緒に楽しみたいですか。
 設問2. 好きな歌のタイトル、またはジャンルを教えてください。

はる

「お花や自然をテーマにした歌」を選んだ方が圧倒的に多く、中でも『チューリップ』（22.4%）は担当している年齢を問わずダントツで1位でした。チューリップは子どもが大好きな花で、春には施設の花壇を彩りますね。

♪さいた～さいた～♪という繰り返しのフレーズで覚えやすく、明るい春をイメージさせる歌ですね。

【その他】

『ぞうさんのぼうし』『おはながわらった』
 『はるですね はるですよ』『せんせいとおともだち』

なつ

四季の中で回答数が一番多かったのは、夏の歌で81曲でした。その回答者の65.5%が「海・プールをテーマにした歌」を選んでいました。人気が高かった歌は、1位が『うみ』、2位が『たなばた』、3位が『アイスクリームの歌』でした。また、夏にはお祭りが多いので『ドラえもん音頭』や『しまじろう音頭』等もありました。

【その他】

『キャンプだホイ』『水てっぽう』
 『すいかの名産地』『おぼけなんてないさ』

あき

「収穫や紅葉をテーマにした歌」を選んだ方が多く、歌詞が楽しい『どんぐりころころ』（27.6%）が1位でした。続いて2位が『やきいもグーチーパー』（21.6%）でした。この歌は、歌詞に合わせて手遊びをしたり、振り付けをつけたりして楽しめる、みんなが大好きな歌ですね。また、『虫の声』や『とんぼのめがね』等もありました。

【その他】

『きのこ』『ハロウィンおぼけ』
 『でぶいもちゃん ちびいもちゃん』『秋の七草』

ふゆ

雪をモチーフにした歌はたくさんありますが、1位は『ゆき』（9.8%）でした。また、83.1%の方が「クリスマスやお正月をイメージした歌」を選んでいました。クリスマスに関する歌はたくさんあり、『あわてんぼうのサンタクロース』や『ジングルベル』、『お客さまはサンタクロース』等を含めて16.7%の方が選んでいました。クリスマスは保育の現場ではなくてはならない活動ですね。

【その他】

『雪だるまのチャチャチャ』『十二支のうた』
 『12月だもん』『カレンダーマーチ』

※（複数回答を含みます）

設問1. 子どもたちにずっと歌い継ぎたいと思う曲は何ですか。(複数回答可)
 設問2. その曲を選んだ理由や、保育者として大切にしていきたいことについて教えてください。

設問1および設問2の回答数は560で、曲の数は125曲でした。その数は予想以上に多く驚きました。回答の中には、「これはいったいどんな曲なのか?」と調べてみたくなるような初めて見る曲名もあり、「子どもたちにずっと歌い継ぎたい曲は、多様性に満ち溢れている!」と感じました。以下に、歌い継ぎたい曲ベスト5と、印象に残った曲やその理由も紹介させていただきます。

歌い継ぎたい曲		
1位	にじ	(作詞:新沢としひこ 作曲:中川ひろたか)・・・112名(全体の20%)
2位	ふるさと	(作詞:山田耕筰 作曲:三木露風)・・・27名
3位	赤とんぼ	(作詞:高野辰之 作曲:岡野貞一)・・・23名
4位	おかあさん	(作詞:田中ナナ 作曲:中田喜直)・・・22名
5位	ありがとうのはな	(作詞・作曲:坂田おさむ)・・・21名
【その他】 ・てをつなごう ・たいせつなたからもの ・どんな色がすき ・お正月 ・世界中のこどもたちが ・ありがところをこめて		

歌い継ぎたい曲1位の『にじ』については、「歌詞に共感する」「元気をもらえる」というコメントが多くありました。ベスト5にはありませんが、『ゆりかごのうた』を選んだ理由には、「お昼寝の前子どもと1対1の時間を、その子が親になったときに覚えていてくれたら嬉しいな…」という思いが込められており、温かい気持ちになりました。また、『大きな栗の木の下で』『いとまき』『げんこつ山のためぎさん』には、「歌うことが難しい乳児でも音楽を楽しむことができ、親子で楽しめるため」等の意見がありました。さらに、ローカル色たっぷりの『TAKAOKA音頭』を選んだ方があり、その理由は「高岡を知ることができ、体を動かせる楽しい曲だから」と、

郷土に対する思い入れを感じることもできました。そして、「国歌だから『君が代』を選んだ」というコメントもあり、『子どもたちにずっと歌い継ぎたい曲』といっても、ひとくくりにならないものだと思います。音楽は子どもの成長を豊かに支え、保育者にとっても癒しや励みになる大切な存在です。歌声は、場所を取らず持ち運ぶ必要もなく、子どものそばでいつでも届けられます。ハスキーボイスでも甘い歌声でも、その歌声は子どもが過ごす日常の環境を豊かにする大切なもののひとつです。みなさんも、一度楽譜をひもいて、歌ってみませんか?♡

編集後記

今回編集委員として、しっかりと原稿を読んだり、考えたりする機会をいただきました。昭和の時代に保育士になり、平成・令和と3つの時代で保育の仕事をし続けるとは、思いもしていませんでした。この時代になり、保育は本当に多様性に満ち溢れ、どこに正解があるかわからなくなりました。

しかし、その中でも変わらないものは、保育所・こども園は「みんな」を大切にしていることだと感じました。みんなで食べる喜び、みんなと歌う楽しさをず〜っと忘れずに職員間で共有していきたいと思いました。

また、今年度受講した研修の中で、ある先生が『「わけへだてない保育』とは、一人一人に合わせて違う保育をして全ての子どもに必要な保育をすることである』と仰いました。とても意味深い言葉で、自分の保育に当てはめると、難しさと怖さを感じました。

二つの学びは相反するもののように感じますが、子ども真ん中の保育では当たり前のこと。当たり前の重みを感じながらも、仲間と笑いながら過ごせるようにしていきたいです。

「会長のひとこと」

一野口先生の講演を聞いてー

「食育は子どもの体や心の成長・発達に直接に関与することが多く、まさに命と直結する内容」だけに、イベントだけではなく「日常的な食育実践の中で課題と向き合う」ことが求められます。その取り組みは園のクラスから園全体に、さらに保護者・地域とネットワークの広がりとともに充実していく必要があります。地域でも「みんなで食べると美味しいんです」の実践が始まっています。「楽しく食べた体験はポジティブな記憶となり、生きる力」となっていきます。

富山県保育連絡協議会 会長 小島 伸也

